



ねがいごと

七夕が近づくと、私たちの幼稚園では、遊戯室に大きな笹を対にして飾る。そこに、子どもたちが家から持ってきたり、幼稚園で作ったり書いたりした飾りや短冊がつけられると、笹はその重みで頭をさげ、大きくしなる。いつもの開放的な遊戯室に独特の雰囲気

が漂う時だ。

「せんせい、これつけといてね」

と、R子から手渡された短冊には、幼い字で、「パパがはやくげんきになりますように……」

と書かれてあった。前の年のクリスマスの朝に父親を突然亡くしたR子の叶わぬ願いを、私たち幼稚園の職員は皆、切ない気持ちで受けとめた。

あれから少しだけ時間が流れ、今思うのは、子どもの真剣な願いは、必ずや星に届くということ。

お弁当やお帰りになるといつの間にか保育室をスーッと抜け出し、誰かが迎えにくることをひたすら待ち続け、迎えに行くと今度は激しく拒んでいたR子は、今では私に素直に甘え、みんなと笑い、悲しくなるとみんなの中で泣けるようになった。

自分の中の父親の存在に気づき、生きることに前向きになった。

今年の七夕、彼女は何を星に願うのだろう。

(幼稚園勤務)

